

統計検定準1級受験者の動向と試験結果

成蹊大学
東京大学，滋賀大学
成蹊大学

中西寛子
竹村彰通
岩崎 学

1. はじめに

2011年11月より始まった統計検定は2015年に5年目を迎えた。統計検定2, 3, 4級は2014年より年2回の実施となり，この6月の実施は通算6回目となった。受験者も年々増え，その評価や認知度もよい方向に推移している。一方で，以下に述べる三つの課題があり，それらを解決するため準1級が設置された。

課題の一つ目は，2級と1級の試験内容のギャップである。2級は推測統計の基本を学ぶことで合格圏内に入ることができ，独学あっても2級の教科書と問題集があれば理解できる。一方で，1級の試験内容は手ごわいものであり，統計数理および分野別統計学の専門的知識が必要である。課題の二つ目は，実際の現場で利用されている統計手法を含めた問題内容を提示することである。2級ではその点に触れる以前の推測統計の必要な知識の確認が優先され，より社会が求める実践的な問題を出題することには無理がある。課題の三つ目は，2級を取得済みの者が多数になり，2級所得者の差別化が可能となる級が必要となったことである。

準1級は，2015年6月21日に実施された試験が初回であった。本報告は準1級受験者層がどのような人たちであったのか，また，問題との関係でどのような傾向があるかをアンケートおよび試験結果の考察を報告する。

2. 統計検定準1級の概要と結果

2015年6月21日実施試験の実績は次の通りである。

応募数：699名　受験者数：458名（65.5%）（6月末現在の情報）

問題；

記述問題（計算）7問，記述問題（解釈）2問，択一問題27問，論述問題3問から1問選択問題内容についてはまだ1回のみの実施ということもあるので，固まっているわけではないが，大きく次のような理解力や能力を問う問題に分かれる。

1. 2級の内容のより正確な理解
2. 数理統計学の若干高度な理解
3. 統計学を利用した実践的な応用分野の理解
4. 数理統計，経済学，医療統計等の分野（選択）の論述能力

このような問題に対してどの程度の理解力があつたかを当日詳しく述べる。

<参考資料> 統計検定 HP <http://www.toukei-kentei.jp/index.html>